

松原玄英上人二十五回忌法要

先日、一月十七日に常林院先々代住職、松原玄英の二十五回忌法要を厳修致しました。

当日は、観音講さまに御詠歌を勤めて頂き、その後、牛ヶ瀬の称讚寺ご住職お導師のもと、組寺法類寺院、そして町内檀家の皆さまにお焼香をして頂き、無事に法要を勤めることができました。玄英もさぞかし喜んでいらっしゃると思います。



本堂内陣

雑記抄

〳祖父から師匠へ〳

常林院先々代住職、松原玄英は、明治三十三年に福井県で誕生し、福井県の安養寺で小僧時代を過ごしました。そして昭和元年に本山永観堂から常林院住職を拜命致しました。以来、昭和六十一年一月に亡くなるまで約六十年間、常林院の住職として法灯を守り続けてきました。

月日の経つのは早いもので、もう二十五回忌を勤めることとなりました。

祖父玄英が亡くなったのを機に私も僧侶となったので、残念ながら、玄英からお寺のことや僧侶としてのありかた等を直接教わったことはありません。わずかに残っているお経のテープを聞いたり、書き記した

資料などを手がかりにしながら間接的に教わってきました。そうしているうちに、気がつけば私にとって「おじいちゃん」という存在だった玄英も、今では「師匠」という存在へと変わったような気がします。

私も住職になって八年が経とうとしています。師匠玄英に直接聞いて教わりたいことはまだまだ山ほどあります……。

平成二十二年三月一日発行

じょうどしゅうせいざんぜんりんじは

浄土宗西山禅林寺派

常林院

月影



第 32 号

かな こと
叶ふ事をば

かな
叶ふと知り

かな
叶はざる事をば

かな
叶はずと知るを

しんじつ
真実というなり



せいざん
西山上人

(訳)

叶うことを叶うと知り、

叶わないことは叶わないと知っていることを

真実という

人間の心というものはとても弱いもので、日々、健康で順調に生活できていると、正しい見きわめができるのですが、病気になるったり、物事がうまくいかずに気が滅入ってしまうと、叶わないことを叶うと錯覚してしまうことがあります。

七十五年前、狐狸妖怪が信じられていた時代に西山上人は、

「叶うことは叶うが、叶わないことは叶わないのだから、あまり加持祈祷（かじきとう）に頼りすぎて叶わないことが叶うと錯覚してはいけません。」

と言っておられます。現代の世も同じで、弱っている心のすきまを見つけては、悪人が近づいてくる例が多々あります。

また上人はお念仏についても、私たち人間というものには、悩み苦しみを限りなく持ち合わせた煩惱多い凡夫です。とても自分の力だけでは極楽往生は叶わないと見きわめて、

「一人ももらさずに極楽へ往生させるぞ」

と誓われた阿弥陀さまを信じて、「こんな私でも救われる喜び」をお念仏にして称えていくことが大切だと言っておられます。西山派のお念仏は「願う」念仏ではなく、「喜び」の念仏なのです。

お経の話 何が書いてあるの？

浄土宗西山勤行式 (赤本) 解説

後唄 (ごばい)

しよせかいじよきよーこうー

処世界如虚空

しんせいせいちようよーひ

心清浄超於彼

じよれんがふぢやくすい

如蓮華不著水

けいしゆれいぶじようそん

稽首礼無上尊

(訳) この世に暮らしていく上において、虚空の

ように大きな心でありたい。

そして水に着かず、泥水に染まらないでい

る蓮華のようでありたい。

このような清らかな心をもって、首(頭)

を地につけて、阿弥陀如来を敬い礼拝いた

します。

虚空・・・空間。

蓮華・・・蓮の花。

後唄(ごばい)というのは字のとおり、後(あと)の唄(うた)という意味です。簡単に言うと、お経をほめたたえる詞(ことば)のことです。

先に肆誓偈(しせいげ)というお経を読み終えました。後唄はこの肆誓偈をほめたたえる詞であり、感謝とよろこびの詞が唄のように配列されたのが後唄なのです。

したがって、お経の後には必ず後唄を称えます。ただし、お経の種類によって後唄の種類も変わってきます。後唄は一つだけではなく、たくさんの種類があるのです。

さて、「虚空(こくう)」というのは空間のことです。この空間は、香りもなければ形もない、またこの世にある嫉妬(ねたみ)や憎しみの心も起こさない清らかな空間のことを言います。そういう清らかな心を持ちたいと言っています。

さらに泥水に染まらずにきれいに咲く蓮の花のように私もありたい、そして清らかな心と身体をもって阿弥陀さまを敬い礼拝させていたいただきたい、というのがこの後唄の意味です。

永観堂禅林寺管長 小木曾善龍法主が退山

永観堂禅林寺管長、小木曾善龍法主が一月末日で五年間の任期満了を迎えられたことに伴い、一月二十九日に退山式が永観堂で挙行されました。最後の挨拶に立った小木曾法主は「振り返ると、この五年間は私の生涯の中で最も充実した、有意義な、しかも楽しい時間だった。」と述べられました。

式典後、僧俗約二百人が見守る中、小木曾法主は退山されました。九十三歳という高齢にもかかわらず、お待ち受け法要などで全国各地へ出向き、宗派のために活躍されました。

二月に入り、姫路の大覚寺、中西玄禮住職が永観堂禅林寺新管長として入山されました。



小木曾管長と法事部の法要
(愛知大会にて)

法然上人八百回大遠忌 お待ち受け法要(滋賀) お待ち受け愛知大会

去る一月二十三、二十四日の二日間、滋賀県の三ヶ寺で、お待ち受け法要が厳修されました。また、一月二十七日には名古屋市芸術創造センターホールにてお待ち受け法要愛知大会

会が行われました。私も小木曾管長と共に、本山法事部として出仕させていただきました。

愛知大会では、愛知県下の約五百名の檀信徒の方がお集まりになり、ホール内は熱気であふれていました。

今年十月十三日には九条にあるテルサホールにて、京都大会が行われる予定です。

本堂の畳を新調

昨年十二月末に、本堂の畳を新調させていただきました。かなり古くなっていった畳がきれいになり、本堂内も明るくなりました。

費用は皆様から積立てて頂いています維持費から出させていただきました。本当に有り難うございました。